

『シャローム』ヨハネ14:27、エペソ2:14-18  
平和がありますように

ヨハネ14:27

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

エペソ1:14-18

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

2:17 それから彼は、こられた上で、遠く離れているあなたがたに平和を宣べ伝え、また近くににいる者たちにも平和を宣べ伝えられたのである。

2:18 というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあって、父のみもとに近づくことができるからである。

## ●序論

「シャローム」これは、「こんにちは」「さようなら」という日常的なあいさつと同じように用いますが、元々は「あなたに平和がありますように」という祝福の言葉です。

ただ、ご存じのようにそのような願い、と祈りが込められた挨拶が交わされる国で、争いが絶えない現実があります。

この「シャローム」（平和がありますように）という言葉を想う時、それはイエスさまも繰り返し用いてきた言葉でもあると気づきます。

この復活されたキリストが、弟子たちの前に現れ、向けられた言葉が、この彼らにとって当たり前、でいて、とても大切な言葉でした。

20:19（新共同訳） その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

「シャローム」という、祝福のあいさつの言葉、大切な言葉なのです。

## ●本論

I. 「シャローム」が意味するもの

2テサロニケ3:16

どうか、平和の主ご自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和を与えて下さるように。主があなたがた一同と共におられるように。

シャロームという言葉が指し示す「平和」への願いは、単に「争いがない」という状態を指す言葉ではありませんでした。

それを一言で言うと、「癒しと回復」です。つまり本来ならこうあるべきという完全な状態に回復されることだということです。

つまり、それは、心身の健康、自分とそして人との良い関係、何よりもまず、神との関係が完全に保たれている状態を願う、包括的で深い祈りの言葉でした。

それは、すべてが本来あるべき姿で、満たされているという理想的な状態を指していたのです。

人間は罪によってこの「シャローム」を失ったのです。

神との関係が断たれ、内なる平安は失われ、他者との間に争いや分断が生じました。心の中の平安を失い、人生の嵐の中でさまよう存在となってしまったのです。

だからこそ、「シャローム」というあいさつは、それらが本来あるべき状態に回復されますように…という、大切な祈りの言葉だとわかります。

## Ⅱ. それは、キリストがくださるものです

14:27（新共同訳） わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

ここでイエスさまは、「世が与える平和」と「わたしが与える平和」を明確に区別されました。

1) 「世が与える平和」とは、状況や環境に依存する、一時的なものです。たとえば、お金や名声を手に入れたときの安心感、戦争が終わり、一時的に訪れる安堵感などです。これらは外的要因に左右されるため、いつか必ず失われてしまいます。

2) 「イエスさまが与える平和」は、世の状況に左右されない、心の奥底から湧き出る本質的な平安・平和です。

それは、イエス・キリストの十字架と復活によって、神との関係が完全に回復されたことによって初めて与えられるものです。この平和は、たとえ人生の嵐の中においても、揺らぐことのない確かなものです。

一冊の本「戦時下の教会を知ろう」～新たなそうせ王を回避するために～。

戦時下…

…表向きには宣教や教会のためと言いながらも、世との衝突を避け、世間に受け入れられ、認められることばかりに心が向き、いつしか本当に守るべきものを見失い、教会の命を失った戦時下の教会の姿があった

こうして、キリスト教会の大きな会派は、あの第二次世界大戦時にそれを支持し、拳句の果てに、「神のみを神とする信仰」から離れて天皇崇拜をも支持し、戦争を支援するような姿を、正しいとするようになってしまったというのです。

あらためてだからこそ、今日のイエスさまの御言葉に耳を傾けなければなりません。  
14:27（新共同訳） わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

キリストが、あの十字架を通してくださっているという「平和」を受け取ることから始める、それがわたしたちへのチャレンジです。

### Ⅲ. キリストこそ、わたしたちの平和です

エペソ2:14-16を新改訳でお読みします

キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。…また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

この御言葉は、キリストの十字架が、単に個人の罪を赦すだけでなく、人間と人間との間にあった「隔ての壁」をも打ち壊したことを教えています。  
、互いに敵対していた二つの人々を、キリストというただ一つの新しい体（教会）にまとめ、神との和解、そして人間同士の和解を実現されたのです。

この十字架によって、もはやユダヤ人も異邦人も関係なく、誰もが、一つの霊によって父なる神のもとに近づくことができるようになったのです。

この素晴らしい福音は、現代を生きる私たちにも 力強く語りかけています。

#### 1) 「キリストこそわたしたちの平和であります」

パウロは、真の平和の源は、ただイエス・キリストお一人であることを明確にしています。私たちの心の平安も、他者との和解も、すべてはキリストから始まるのです。

#### 2) 「敵意という隔ての壁を打ち壊す」

「隔ての壁」、人種、国籍、政治的思想、貧富の差、…などなど。  
しかし、福音は語ります。キリストはすでにその壁を打ち壊してくださいました。

私たちは、そのキリストの愛に倣い、自分と異なる他者との間に和解の福音をあらわす者でありたい。祈る者でありたい。また証しするものとして用いていただく、そういう願いを「シャローム」（平和がありますように）と表すことができれば感謝です。

さいごに)

パウロの言葉にこういう確信に満ちた言葉あります。

ローマ5:1

このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

わたしたちの平和の始まりであり、一番のかなめは、「神に対して平和を得ている」という確信です。

そうして彼の確信は希望の告白につながっていくのです。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

だから、キリストを見上げて、キリストからいただく平和こそが大切なのです。

ヨハネの福音書は、わたしたちの足りなさ、弱さ、愚かさ、迷いやすさをよく知っていて、それでも神さまを指し示して語るのです。それでも神さまはわたしたちを愛していると。

ヨハネ3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

これがキリストに証される、神さまとの平和、安心そのものです。

だから、わたしたちはこの神さまをまっすぐに見上げて、お互いに祝福の言葉を告げることができるのです。この神さまにあって、「シャローム」（あなたに平和がありますように）と。